

「生物多様性国家戦略2023-2030」の構成・概要

第1章 生物多様性・生態系サービスの現状と課題

世界の現状と動向：損失の直接要因と背景にある間接要因、生態系の確保・回復と自然を活かした解決策による統合的解決、自然資本管理・生物多様性保全のビジネス化

我が国の現状と動向：4つの危機、根本要因としての非主流化

生物多様性国家戦略で取り組むべき課題：取り組むべき課題の観点（①世界目標への対応、②世界と日本のつながりの中での課題、③国内での課題）と、**具体的課題**

第2章 本戦略の目指す姿（2050年以降）

・2050年ビジョン 「自然と共生する社会」

『2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、賢明に利用され、生態系サービスが維持され、健全な地球が維持され、全ての人々にとって不可欠な利益がもたらされる』

第3章 2030年に向けた目標

・2030年ミッション
「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」

5つの基本戦略と40の個別目標を設定

15の**状態目標**（あるべき姿）・25の**行動目標**（なすべき行動）

第4章 本戦略を効果的に実施するための基盤・仕組み

- ・実施に向けた基本的考え方
- ・進捗状況の評価及び点検：国際枠組のレビューメカニズムへの対応
- ・多様な主体による取組の進捗状況の把握
- ・各主体に期待される役割と連携

ビジョンから関連施策まで一貫通貫

①生態系の健全性の回復

状態目標（3つ）

生態系の健全性の回復、種の絶滅リスクの低減、遺伝的多様性の維持

行動目標（6つ）

陸と海の30%以上保全、劣化地の30%以上再生、汚染削減・外来種防止、気候変動影響の最小化、希少種保護・状況改善、遺伝的多様性保全

②自然を活用した社会課題の解決

状態目標（3つ）

生態系サービスの向上、気候変動対策による生態系影響減、鳥獣被害の緩和

行動目標（5つ）

生態系機能の可視化、自然活用地域づくり、気候変動関連自然再生、再エネ導入時の配慮、鳥獣との軋轢緩和

③ネイチャーポジティブ経済の実現

状態目標（3つ）

ESG投資の推進等、負の影響の低減等、持続可能な農林水産業

行動目標（4つ）

企業の情報開示、貢献技術・サービス支援、遺伝資源ABS、環境保全型農林水産業

④生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動（一人一人の行動変容）

状態目標（3つ）

自然重視の価値観形成、消費行動における配慮、保全活動への積極的な参加

行動目標（5つ）

環境教育の推進、ふれあい機会の提供等、自主的行動変容促進、消費行動・選択肢提示、地域保全再生活動促進

⑤生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進

状態目標（3つ）

情報基盤の整備等、生物多様性資金の確保、途上国支援能力構築等

行動目標（5つ）

学術研究・基礎調査等、データ活用の人材育成、地域戦略等策定支援、資源動員の強化、知見を活かした国際協力

第1章 生態系の健全性の回復

国立公園やOECM等17施策
自然再生等35施策
汚染・外来種対策等46施策
気候変動影響評価等2施策
レッドリスト・希少種等9施策
遺伝資源収集・保全等6施策

第2章 自然を活用した社会課題の解決

ECO-DRR等8施策
地域循環共生圏等30施策
気候変動緩和策等11施策
バードストライク等4施策
鳥獣被害防止対策等15施策

第3章 ネイチャーポジティブ経済の実現

企業の情報開示等6施策
ビジネス取組支援等4施策
ABS指針の推進等3施策
有機農業の推進等29施策

第4章 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動（一人一人の行動変容）

環境教育の推進等8施策
ふれあい機会提供等15施策
行動変容の促進等5施策
食ロス削減・食育等7施策
伝統文化配慮OECM等7施策

第5章 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進

基礎調査等29施策
科学的情報の共有等22施策
地域戦略策定推進等5施策
資源動員の強化等6施策
生物多様性日本基金等38施策

30by30
ロードマップ

生物多様性及び生態系サービスの重要性の解説

自然共生社会における国土の
グランドデザイン